

# Book Review

## スタンダード細胞診テキスト 第4版

水口國雄 監修/東京都がん検診センター 編



令和元年、垂涎の「スタンダード細胞診テキスト 第4版」が刊行された。本書は1998年に初版が刊行されて以来、20年をこえて多くの臨床検査技師学校や大学で教科書として、採用されている。これまで細胞検査士を志す幾多の人々が細胞診を勉強するための必携の書として用いてきた、ロングセラーの人気を誇る一冊である。

本書は、細胞診に関する必須の基本的内容が包含されている。写真はすべてフルカラー化され、細胞像と組織像が一括セットで対比されており、解説は簡明直截である。また、細胞診が理解しやすいよう臓器の発生学や解剖学的事項が記載され、組織分類や判定基準、自動判定装置など最新の情報も網羅されている。表や図も要所に的確に配され、さらに言葉では表現しにくい部分はシェーマが盛り込まれ、視覚的に理

解することが容易となっている。欄外には充実した「メモ」、「重要」、「注意」などの側注が掲載されている。また、巻末の演習問題も最近の細胞検査士資格認定試験の出題傾向に合わせて刷新されている。執筆陣も時代に合った次世代の専門医や細胞検査士が加わり、それぞれの得意分野を担当し、フレッシュさが感じられる内容となっている。

本書「スタンダード細胞診テキスト 第4版」はまさに細胞診初学者のための手引書として、細胞の基礎から診断、応用までを系統的に学べるよう改訂された待望の一冊である。

(公益社団法人 日本臨床細胞学会細胞検査士会  
会長/東海大学医学部付属病院 病理検査技術科

伊藤 仁)

<B5判/480頁/本体9,000円+税/医歯薬出版/2019>